

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 1 末梢性顔面神経麻痺の症状はどれか選りなさい。

1. 開口障害
2. 嚥下障害
3. 開眼障害
4. 流涎
5. 眼球運動障害

問 2 高齢者の嚥下障害について誤っているのはどれか選りなさい。

1. 神経機能低下による感覚異常
2. 靭帯のゆるみによる喉頭の低位
3. 咽頭反射の減弱
4. 輪状咽頭筋の弛緩
5. 頰椎骨棘増殖による食道の圧迫

問 3 誤嚥患者について誤っているのはどれか選りなさい。

1. ACE阻害薬の投与は避ける。
2. 胃食道逆流があればプロトンポンプ阻害薬を投与する。
3. 口腔内を清潔にする。
4. 食事で半座位をとらせる。
5. むせを訴えなくても誤嚥はみられる。

問 4 開口時に直接見えないのはどこか選りなさい。

1. 舌根
2. 中咽頭
3. 舌背
4. 口蓋垂
5. 齒茎

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 5 口唇について正しいのはどれか選びなさい。

1. 嚥下第1期には閉鎖する。
2. 声道の共鳴には関係しない。
3. 粘膜部の近くは舌咽神経支配である。
4. 横に引く筋は三叉神経支配である。
5. 突き出す筋は母音発音中抑制される。

問 6 軟口蓋(口蓋帆)について正しいのはどれか選びなさい。

1. 嚥下第2期に弛緩する。
2. 口蓋帆張筋の収縮によって挙上する。
3. 中央部は靭帯で構成されている。
4. 挙上不全があると開鼻声を生じる。
5. 上面は上咽頭の底部にあたる。

問 7 正常嚥下時に起こらないのはどれか選びなさい。

1. 食塊形成
2. 鼻咽腔閉鎖
3. 喉頭挙上
4. 声門閉鎖
5. 声門下圧下降

問 8 嚥下第2期(咽頭期)にみられる現象はどれか選びなさい。

- a. 軟口蓋による鼻咽腔の閉鎖
- b. 甲状咽頭筋の弛緩による食道入口部の開大
- c. 食道の蠕動運動
- d. 中咽頭の圧上昇
- e. 喉頭の挙上および閉鎖

- ① a, b, c ② a, b, e ③ a, d, e ④ b, c, d ⑤ c, d, e

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 9 嚥下後の下咽頭の食塊残留が示唆するのはどれか選びなさい。

1. 咽頭期誤嚥の惹起不全
2. 喉頭蓋の倒れ込み障害
3. 食道入り口部の狭窄
4. 食塊が喉頭から気管に入る前駆症状
5. 正常な老化現象

問 10 鼻咽腔閉鎖機能不全を起こさないのはどれか選びなさい。

- a. 口蓋扁桃肥大
- b. 口蓋裂
- c. 軟口蓋麻痺
- d. 軟口蓋短小
- e. 高位口蓋

① a, b ② a, e ③ b, c ④ c, d ⑤ d, e

問 11 舌について構音に必要でない条件はどれか選びなさい。

1. 舌尖の運動性
2. 形態変化能
3. 運動の速さ
4. 軟口蓋との接触能
5. 口唇より前方への挺出

問 12 構音障害を起こさないのはどれか選びなさい。

- a. アフタ性舌炎
- b. 舌進展癌
- c. 舌癒着症
- d. 舌下神経損傷
- e. 地図状舌

① a, b ② a, e ③ b, c ④ c, d ⑤ d, e

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 13 Oral diadochokinesisで検出されるのはどれか。

- a. 筋力の程度
- b. 速さの程度
- c. 速さの変動
- d. 声の大きさの変動
- e. 呼気圧の変動

① a, b, c ② a, b, e ③ a, d, e ④ b, c, d ⑤ c, d, e

問 14 嚥下運動に関与しない神経はどれか選びなさい。

- 1. 三叉神経
- 2. 外転神経
- 3. 顔面神経
- 4. 迷走神経
- 5. 舌下神経

問 15 嚥下第2期に収縮しない筋はどれか選びなさい。

- 1. 口蓋帆挙筋
- 2. 胸骨甲状筋
- 3. 茎突舌骨筋
- 4. 甲状舌骨筋
- 5. 甲状咽頭筋

問 16 摂食・嚥下に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

- 1. 先行期は認知機能の影響を受ける。
- 2. 準備期では食塊を咽頭に送り込む
- 3. 口腔期の食塊の移送は口唇で行う。
- 4. 咽頭期は鼻腔が開放して行う。
- 5. 食道期は随意的な運動で行われる。

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 17 舌の機能について誤りを選びなさい。

1. 口腔に取り込まれる食物の性状を確認する。
2. 捕食された食物を臼歯の上に運び保持する。
3. 咀嚼された食塊を口腔内で唾液と混和する。
4. 発生時の共鳴腔となる。
5. 複雑な構音に寄与する。

問 18 口蓋の機能について誤りを選びなさい。

1. 口腔前底部の食物を固有口腔に押し出す。
2. 口腔(中咽頭)と鼻腔(上咽頭)を閉鎖する。
3. 鼻腔を閉鎖し、発声を助ける。
4. 味覚の受容
5. 舌と協同して食物を押しつぶす。

問 19 咽頭と食道について誤りを選びなさい。

1. 咽頭 ————— 気管の入り口。
2. 声帯 ————— 発声を行う器官。同時に誤嚥性肺炎防止にも役立っている。
3. 気管 ————— 空気の通り道。嚥下の瞬間以外、空気が通っている。
4. 食道入口部 —— 食道の入り口。通常は開いている。
5. 食道 ————— 食物の通り道。通常は閉じている。

問 20 嚥下障害の機能的な原因に最もなりにくいものを選びなさい。

1. 筋緊張性ジストロフィー
2. 多発性硬化症
3. 脊椎小脳変性症
4. 胃癌
5. 筋委縮性側索硬化症

問題 C 嚥下全般・解剖・メカニズム

問 21 不顕性誤嚥を疑う病歴として不適切なものを選びなさい。

1. 食事摂取に時間がかかるようになった。
2. 一度に頬張って食べるようになった。
3. 痰がからんだような咳をすることが多くなった。
4. 食事量が減ってきたり、体重が減ってきた。
5. 最近何度か肺炎で入退院を繰り返した。

問 22 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状はどれか。2つ選びなさい。

1. むせる
2. 咀嚼に時間がかかる
3. 食後に声が変わる
4. 口から食物がこぼれる
5. 食渣が口腔前庭部に停滞する